

都市の幼児教育に對する希望

—— 日本幼稚園協會 五月講演會に於ける講演筆記 ——

東京市視學 田 島 眞 治

今日は「都市の幼児教育に對する希望」を言ふ題でお話をする様にこの事でございますが、私は只今東京市の幼稚園の中で、公立になつてゐます幼稚園を時々拜見しますが、その間に氣付いた事がありまして、かうゆう事は是非御願を申上度い言ふ事——謂はゞ話すに云ふよりは、私の方から都市の保育に携はつてゐる方々に御願を申上度い、言ふのが今日の私の眞實の心なのでございます。

保育の大切な事は、もはや詮議立てをする必要がない程大切であります。さうして之が國家として一段と整つた法律を出さないのか云ふ心持がする位であります。義務の仕事であつても然るべきものであつて、將來は必ずさうゆう時期が来るであらうと思ひますが、之は私の保證の限りではありません。

保育に就ての理論は、倉橋先生は長年の間御研究もされ、御指導もなされて居りますので、理論の點については微に入り細に入り御承知の事と思ひます。

私は保育についての理論のお話をする言ふ事を考へては居りません。唯自分の役目として、時折五十近くの公立の幼稚園を拜見致しますので、その折々に感じた事、氣付いてゐる事、そしてそれは實施されて居る事であるので、別段今日は新しい話をしようとは考へて居らないのであります。

私は都市云ふのが子供を育てる環境としては誠に工合が悪いと思つて居る。工合が悪いと言ふ事にも種々あらうと思ひますけれども、先づ第一に希望したい事は

身體を丈夫に育てたいと言ふ事

山の手の環境ミ、下町の環境ミの間には大分の隔りがあるけれども、大都會云ふ方から見るミ、自然に親しませるのに不充分である云ふ事は同じであります。

都市の自然は、實に人間の正常な發育を阻害するに充分であります。醫者に言はせるミ六ヶ敷しい事を言ふかも知れませんが、こゝでは通俗に考へて見度いと思ひます。

幼稚園を拜見する時、砂場を廣く取つてあるのを見るミ實に愉快に思ひます。狭い地域ながらも、自然の土が現れて居り、その匂ひをかきながら子供達の遊んでるのを見るミ實に愉快であります。はだしになつて、シャベルを持つて土を掘り、又は草を植ゑたり、ぬいたりする様子は實に尊い姿だと思ひます。こゝいふ事の出来る幼稚園は大都市の中でも極く少數で、大多數はこゝはいかぬのであります。その多くは、氣持の悪い事には、幼稚園の家全體を壓する様な鐵筋コンクリートの建物が、しかも園舎の南の方に、つゝ立つて御叮嚀にもゴウ／＼たるきしりを立てゝゐる、その上もつゝ御叮嚀に煙を濛々吹き立たせて、園舎の中にその黒煙を遠慮もなく吹きかける云ふ有様で、實に情けない限りだと思ひます。四方共コンクリートの高い塀を廻らして、子供が無邪氣に見上げる隣の臺所や物干には、こゝに幼稚園がある事を知らぬげに、勝手に種々のものが見える、幼稚園の事を考へる都會人は誠に尠い。随分保育しにくい事と思つて保姆さんに聞くミ、泣きそふな顔をしてこぼす先生も澤山ある。都會の噪音、雑音——同じ音にしても都會の音は非常に鋭い音に聞える——電車のきしり、工場の賑やかな機械の音等、實にたまつたものぢやありません。實際の幼稚園は、實にひゞい環境の中に

あるのであります。こゝいふ中で子供達が遊ぶのですから、先生達の苦勞も並大抵ではありません。始めの間は子供達は神經をいらつかせ、すり切らせてしまふのでありますが、それが二ヶ月、一年、二年を經つ中には感じなくなつてしまふ。感じなくなるに云ふ事は、差支がないのではなくて、實に恐ろしい現象なのであります。子供自身の享けて居る自然の恵み——感じ分けるに云ふ感覺を鈍磨させるに云ふ事になるのであります。傷けられる事は莫大なものであります。

都會の生活は實に仕事が多くて、複雑で、享樂の機關が多く、種類がまた雑多であります。こゝいふ環境から受ける結果は、恐ろしいものであります。

田舎には享樂の機關がありません。大自然を友として悠々自適、何不自由なく育つのであります。都會は生れるに直ぐからそれらを一渡り享樂する。享樂をするに今度は、前に倍した強い刺戟を欲する。強い刺戟でなければ享樂した氣持にならない。その結果として心身の疲勞するに夥しいのであります。嚴密に云ひますに、現在の社會は神經衰弱症にかゝつてゐるに斷言してもいゝのでありませう。

都會人は己れ自ら、精神が鋭くなつたに云ふ境を越えて、もう疲れ切つてゐるので、餘程強いのでなければ違つたものの様には感じない様になつてゐます。こゝいふ社會に生まれた生兒は、生み落されるに直ぐから刺戟の強い環境に育てられ、神經過敏になる、疲れ切る、疲勞がかさむ、へきへきになるに云ふ調子です。子供が遊戯をしたり、話しをしたりする様子を後から見えてゐるに、大多數の子供は餘程心身が疲勞してゐます。この事實は、都會生活者にして免れない實情なのであります。

之を何さかして心身を疲勞させない様に、着眼する事が都市保育の一つであらうと思ひます。

現在の社會は、非常に複雑になつてゐるので、親も營々として自己の生活に没頭してゐます。これが子供にもひしく

感じられて、無邪氣な玉の様な子供でも、いつかはなしに親のせかしくした氣分に揉まれ、子供までもいろくの氣苦勞をします。生活上の問題、親達のいさかひ、之皆子供の氣苦勞になるのであります。子供達の氣苦勞もまた大變なものであります。

田舎の人の喧嘩は、都會の人の喧嘩と違つて大げさで、打つたり、棒で叩いたりですげ、たゞそれだけであります。都會の人ののは、目と目と睨み合ひ、男は大きい聲、女は痛高い聲で一度は急テンポで罵り合ふ、女もヒステリック、男も亦ヒステリックであります。或人が田舎の人の喧嘩は、疎漫、彪大だが、都會の人は痛烈だといつてゐるのを聞いた事があります、成程と思ひました。田舎の人ののは、一陣の風がさつて來る様でありますし、都會の人ののは根が残る。根が後まで残るご精神が疲勞する。之を見るご子供も亦疲勞する。快感をそゝる事にはならない。用事はあり、仕事はあり、複雑なのが都會生活。田舎の生活に比して、實に、量に於ても實に於ても大變で、時間の不足、仕事に際限なしご云ふ有様であります。朝、新聞を讀めずに夜讀むご云ふごも稀ではありますまい。

都會生活をする女性は、この複雑なる生活を改良せねばならないと思ひます。これ等から來る睡眠不足は都會生活のつきものであります。私共の生活に致しましても睡眠時間は誠に少い。こうしてお顔を見て居りましても、ゆうべの睡眠不足らしい方は二十人以上もあります。子供を育てゝる家は育てゝない家に比べるご、仕事はそれ丈多いご云ふ事になる。親の睡眠が少なければ自然子供も少くなり易い。都會の子供はもつごもつ澤山眠らせなければなりません。この子は本來神經過敏で睡眠が足りない等言ふ子が澤山にある様です。大多數の家庭は寢ろくご云つて漸くねかしつける有様です。仲々子供も寢ない工夫をするものです。何れにしても、充分によく寢て、朝元氣よく起きて來る、ご云ふ子供があるご、そのお母さんは實に偉いご思ひます、幼稚園の方から言つても睡眠不足を發見したら親ごよく相談して平和に安らか

に寝させられるならば、保姆さんの重大な役目の一つを果したと云つてもいゝと思ふ。お話をしてやるとか、ピアノを弾いてやるばかりで、保育が全うされるのではありません。私は睡眠不足と云ふ事が實に氣になります。親の不足は自業自得でありませうが、せめては第二の尊い子供を無創にして育て、やり度いと思ひます。

或幼稚園で、幼児の睡眠時間の長さ、睡眠中の模様、就寝の時の状態、朝の起きる状態等を委しく調べてる所があります。こういう事は、保育と關係が無い様に思はれるけれども、實はそうではなく、こういう心掛のいゝ保姆さんは、一事が萬事、隅から隅まで行き届いて居るのであります。感服の至りだと思ひます。こういう事は今からでも結構ですからやつて頂き度いものです。

都會の文化の程度は高い、東京の文化は日本で一番高いのであります。文化は人間の幸福を高めますが、一面に又逆轉させるさういふ苦々しい部面があることに氣づかねばなりません。都會の文化の持つ一の醜惡なる事に尊い子供を浸潤させたくないものであります。

先づ、東京の公私立の幼稚園に於きましても概して文化の高い程度 of 家庭の御子さんが多い事と思ひます。上流の家庭は概して、先天的に遺傳がいゝと云へる。幼稚園によこして居る家庭は、大方知能が高い。この人達の生んだ子供が幼稚園に來てるとするに、いゝと云へる。文化人の生んだ子は概して弱い、良い家庭の子程、蓋然的に云つて身體に申分が多い。之はご馳走が多く、菓子等が過多だからであります。都會人の菓子は並大抵じやありません。相當立派な菓子でも駄菓子としか考へないやうです。この頃の子供は口が肥えて、味覺が發達してと云へばいゝ様なものゝ實はその間に憂ふべき現象があります。子供の不平を癒やし、悲しみをいやすに菓子を以つて胡魔化したり、可愛がつて見たり、眞似をしたり、自由自在に親が弄ぶと或人は云つたが、さもあらんと思ふ。

幼稚園の身體検査の統計を見るに涙が出て來ます。こんな調子で第二の國民をしていゝのか、先暗い思に打たれる。田舎の廣々した野原で、ひゞあかぎれをきらして、野良を飛び廻つて遊んでゐる子供等は我儘を云ふ機會もなし、おいしいお菓子なごにありつく事もめつたにないが、之で實に丈夫に育ちます。

都會の子供の憂ふべき現象として、胸が長く、胸が薄い、蒙宗竹の竹筒みたいな子が多いのであります。肉付が悪くて色が青白くて足が金火箸の様。足は即ち骨で、目だけキョロ／＼してゐる。それでゐて、言ふ事は實に薄ボンヤリの大人をやつ／＼けて呵々大笑するに云ふ子供がかなりあるに云ふ事は實に欺げかほしい事に思ふ。しかも腺病質で神經質で、筋肉薄弱、直に疾病にかゝりそうな身體薄弱が夥しい數であります。目が光つてゐるだけならいゝが近視眼、亂視、右で視力が違ふ。右左の耳が違ふ。完全な齒を持つてゐる者は殆んど無い程である。醫者は齒のいゝものを選び抜いて表彰して居る所があるが、この式はあまり名譽の事じやありません。文化の程度の高いに云ふ事に反比例して身體の方は悪いのであります。

それで幼稚園では、子供相互の作業、自然に立働いて伸び／＼遊びつゝ仕事する機會をなるべく多くするに云ふ事が、保育としては大切な事と思ふ。身體を順當に發育させ丈夫にするに云ふ事は保育の大部分の仕事だと思ふ。その他の事に力を入れて得々として居るのはいけない。やるべき事はやらねばならないが、ほんたうに伸々々充實してゆく様な土臺を幼稚園時代に作つてやる事が、大切な事だに深く感じます。幼稚園の仕事は實に六ヶ數いものであります。この仕事に従事していらつしやる方々の苦勞は並大抵じやあるまいに、つく／＼思ひます。

次に私は都會の子供の缺點を探して見ませう。代表的な缺點として、生意氣(子供不相應な)に云ふ事を擧げます。憎らしい様な茶目をやります。——純眞な茶目、あきけない茶目でなしに——美の極を通り越す醜になります。都會は文化

が高いのですが、幼年時代は素朴な、線の太い生活がいゝと思ひます、御念の入り過ぎたのよりも素朴的な取扱が寧ろ大事だと思ひます、悠悠とした生活を営ませる機會を相當に多く取り度いと思ひます。之が幼兒將來の遠大な生長を基礎つけてくれます。和氣霽々たる落ついた、なごやかな生活は人間を本然の姿に立ち返らせます。こういう境地に立たなければならぬと思ひます。禪房に參禪してゐる様な氣持、美しいメロデーに聞き入つて居る様な藝術的な感じを持たなければなりません、都會人は、恰も母親の膝に安らかに眠る様な世界が所々に挟まれなければならぬと思ひます。靜中動あり、動中靜あり、眞に伸びんミするには一應は縮まねばならない、大に動かんミすれば先づ落ついた靜けさがなければなりません。所詮活動的な子供ですから、大人の様な靜計りは勿論無理ですが、繁華な眞ん中には、我儘な、こもするミ横著な子供が居るだらうが、こういう子供を、幼稚園のすなほな生活に馴致して行く様にしむける等は、保育時間の尊い仕事であります。

最後に一口申し添へますが、それには保育に當る人自身が、保育に對して十分の憧れミ眞剣さがなければならぬと思ふ。尊い仕事に携はつて居るのだミ云ふ誇りミ自信ミを持つてやるべきだと思ふ。浮きくした、ふわくした考ではないと思ふ。事極めて重大であります。

小さい時から、敬虔的な氣持を植え付けて置くミ云ふ事が大切であります。憎らしい茶目をする心持を、敬虔的な、宗教的な氣持に浸らせるミ云ふ時間がさうしても無ければならぬと思ふ。かくして完全なる人格を形づくる素地の涵養につとめなければなりません。小俐巧な線の小さい子供、物知りげな子供を育てるミいつた保育振りに墮してはいけぬと思ひます。